

視点2 指導体制の工夫 取組④

少人数指導の充実や教科担当制に取り組みましょう



今回の全国・学力学習状況調査で正答率の高かった学校の中には、少人数指導担当教員が中心となって組織的に授業づくりを行ったり、小学校高学年を中心に教科担当制を実施して、教師の専門性を生かした授業を行ったりするなど、質の高い授業づくりに努めている学校が見られました。

少人数指導の担当者がリーダーシップを発揮し、共通理解のもと授業を進めましょう

ポイント①

新しい単元に入る前に、少人数指導担当教員が中心となって打合せを行い、子どもの実態や単元に応じて指導形態を工夫するとともに、ねらいの達成にむけた手立てや評価項目・評価方法等について共通理解を図りましょう。

ポイント②

少人数指導を担当している教師が日常的に情報交換を行い、効果的な手立てや教材等を共有するなど学び合うことで、少人数指導全体の授業の質を高めましょう。

ポイント③

少人数指導を担当している教師が協力して評価テストの問題を作成すること等で、身に付けさせたい知識・技能や高めたい思考力・判断力・表現力等を明確にすることにより、学習集団に応じた授業の質を高めましょう。



子どもたちにとって、どのような学習集団（習熟度別、興味・関心別、T.T等）が一番効果があるか、また、分かれた集団ごとに、どんな授業をすればよいか、もう一度、検討し直す必要がありそうですね。

教科担当制を実施して教師の専門性を生かした授業づくりを進めましょう

メリット①

担当する教科等の数が少なくなるため、担当する教科等に時間をかけて教材研究を行うことができ、より児童の実態に応じた授業を行うことができます。

メリット②

教師が、複数の学年の学習指導にかかわることにより、指導内容等の系統性を踏まえて指導できるようになり、授業の質が高まります。

こんなメリットもあります・・・

1つの学級に複数の教師がかかわることで、子どもの実態を多面的に、そしてタイムリーにとらえることができ、組織的な生徒指導が行えます。



担任の先生が学級の課題を一人で抱え込まなくてすむのも教科担当制のよいところですね。